

園だより

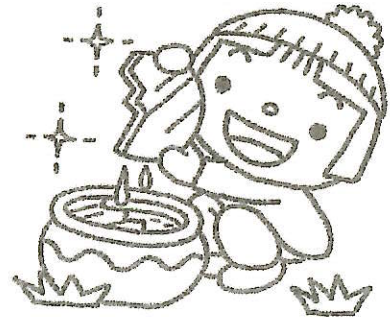
2024年2月1日

社会福祉法人緑の丘福社会
ののかぜ保育園

冬の自然を満喫し元気にあそぼう

コマ、かるた、あやとり、すごろく、けん玉など
冬ならではの伝承あそびを楽しもう

進級にむけて交流保育を行っていこう



2月 保育・行事計画

1	木	伝言ダイヤル 経営部会	11	日	祝日	21	水	
2	金	節分	12	月	振替休日	22	木	保健部会 法人事務局会議
3	土	あい共連法人交流会	13	火	祝う会会議	23	金	祝日
4	日		14	水		24	土	
5	月		15	木	伝言ダイヤル 給食部会 運営委員会 避難訓練	25	日	
6	火		16	金	見えてみて展覧会	26	月	入園説明会 あい共連幹事会
7	水	職員会議	17	土	見えてみて展覧会	27	火	
8	木	保育部会 千種区保育と教 育の会区懇談	18	日		28	水	誕生会 職員会議
9	金		19	月	実習生受け入れ	29	木	
10	土		20	火				

【お知らせ&お願い】

○実習受け入れ…2/19（月）～3/2（土）愛知県立大学学生2名、れんげと幼児クラスで受け入れます。

○2023年度保護者アンケートへのご協力ありがとうございました。運営委員会でとりまとめ後、
返答含めて皆さんにお返りする予定です。

○3月25日（月）新年度準備日のため、ご家庭での保育協力をお願いします。

この日一日で、旧クラス片付け・清掃、新クラス準備を行い、翌日の進級式を迎える
準備をします。お忙しい中、ご迷惑をおかけしますが、ご家庭での保育協力をお願いします。

寒暖差が激しい1月でしたね。下旬には冬らしく雪も降り、子どもたちは園庭で雪あそび(という程の積雪ではありませんでしたが、名古屋っ子は満足ですね)を楽しんでいました。登園時、事務室で小さな雪の塊を「はい、先生プレゼント」と渡してくれた子もいて、ほっこりした職員です。今月は「節分行事」があり、ののかぜ保育園にも「鬼」がやってきます。みんなで力を合わせて豆をまいて(さくらさんががんばります!)悪い虫を追い払い、また一年健康に過ごしていきましょう。



<地域子育て支援事業「みんなのはらっば」との交流>

ののかぜ保育園が運営している子育て支援事業「みんなのはらっば」ですが、今年5月からコロナウイルスが5類になったことで参加人数がかなり増加し、毎日たくさんの親子が遊びにきています。お母さんたちの要望の1つに「保育園の子どもたちとの交流」が大きく、先月初めての「5歳児さくらさんとのリズムあそび」を行いました。「どんなリズムをすればいいかな?」と、前もってさくらさんと相談をし、当日は小さい子どもたちの様子にも気持ちを寄せながら、5歳児らしい、楽しく素敵な姿を見せてくれた子どもたちです。

19組の親子参加し、大変賑やかな会となりましたが、子どもたちお母さんたちみんな笑顔がいっぱい、大好評でした。保育園の子どもたちにとっても「はらっばのお母さんと子どもたち」との交流は大切な関わりです。コロナの心配がなくなったところで、今後も様々な内容で交流を進めていきます。家庭での子育ての大変さに気持ちを寄せながら、また私たち職員も、お母さんと子どもたちとの関わりの中で様々な学びながら、より良い支援事業を目指していきます。(小さい兄弟がいる産休育休中在園児ご家庭の皆さん、機会があれば遊びに来てくださいね。)

<1/13(土)法人合同研修会>

1年に一回、法人内で開催している「合同研修会」です。(保育協力していただいた保護者の皆さん、ありがとうございました)毎回法人内5ヶ園主任メンバーが、各園の現状と課題を話し合い、テーマを決めています。今回は長年保育現場での実践研究を続けられ、多くの著書がある清水玲子氏に依頼し『子どもの視点に立って、子どものことをいっぱい語り合う職員集団をめざして』というテーマで講演していただきました。数十年前から清水氏に学んできた私たち法人ですが、「子どもをどこまでも分かっていくこと=子どもをわかることに徹する。どんな行動にも理由がある。その子の気持ちをいつも考える。そうなんだとしみじみわかったとき、子どもの願いが見えてくる。」など「とことん子どもに寄り添った保育づくり」という保育観は、まさに緑の丘福祉会の礎であると改めて思う研修会でした。学びを生かし、どんな状況でも「子どもにとってどうなのか?」そんな視点に立ち戻りながら、職員集団のコミュニケーションを大切にして、今後も保育づくりを積み重ねて行きたいと思います。

○元旦の能登半島大地震から1ヶ月が経ちました。亡くなられた方のご冥福と、被害にあわれた方の穏やかな暮らしが一日でも早く戻ることを願います。保護者の皆様には、募金のご協力ありがとうございました。

一向に進まない復興に、誰もがもどかしさや憤り、疑問を感じる日々だと思いますが、先日の中日新聞記事の中で、弁護士川口創氏の「(復興が進まない)その要因に『平成の大合併』による地方自治体の広域化と自治体職員の削減がある」という言葉に出会いました。「この震災で、国と自治体のあり方が鋭く問われている」とも。保育福祉制度の問題と重ね、世の中をしっかりと見つめ、声に出していかなければならないとあらためて思います。

